

講義コード	515104101	
講義名	保育実習指導I（保育所） AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	後期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	穴戸 良子	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

将来の保育士としての自覚を高め、実習を円滑にすすめていくために、保育実習の意義・目的、実習内容、守秘義務等の実習に際にしての留意事項を学び、自らの実習の課題を明確にする。また、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容を具体的に理解する。また事後指導を通して、総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

授業の到達目標及びテーマ

本科目は、保育実習I（保育所）の事前事後指導に位置づくものである。

本科目の到達目標は、以下のとおりである。

1. 保育実習の意義・目的を理解し、説明できる。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にできる。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、説明できる。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、説明できる。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にできる。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。

幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「6.自主学習・自主自律を実践できる」と「7.他者との協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。」と「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」と「9.理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている。」と「10.積極的にボランティア活動に取り組むことができる。」を達成するための科目である。

授業計画表

--	--	--	--

回	項目	内容	予習
第1回	保育実習の意義・目的と実習の内容	実習の目的、実習の概要、実習の内容について学ぶ	
第2回	実習における観察、記録及び評価	記録を用いた他者理解を深めるグループワークから、観察や子どもとの関わりを通して子ども理解を深めるための観察の視点、記録の書き方、評価の在り方を学ぶ	
第3回	子どもの人権と最善の利益の考慮	テキスト内のワークを行いながら、自己の子ども観、保育観を見つめ直し、子どもの人権と最善の利益を考慮した保育及び保育士としての役割と職業倫理について考える	
第4回	保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わりの実際	視聴覚教材を通して、2歳児クラスの半日の園生活の過ごし方と保育者の援助や関わりの実際を知り、それを手がかりにして指導計画を作成する	
第5回	実習における計画と実践	3歳児クラスにおける設定保育を事例として取り上げ、子どもの発達過程に応じた保育内容と指導計画の作成の仕方について学ぶ	
第6回	保育所保育指針に基づく保育の展開	保育所保育指針に基づき、保育のねらいと内容の関係について学ぶ	
第7回	教材研究（絵本の活用）	図書館を活用し、絵本や紙芝居に触れてそれぞれの特徴を捉え、保育現場での活用方法をイメージしながら絵本研究ノートを作成し、教材の教育的価値について学ぶ	絵本や紙芝居を30冊読み、絵本研究ノートを作成する
第8回	子どもの発達過程に応じた様々な保育デザインの実際	現場保育者が作成した0歳～6歳までの多様な指導計画から、指導計画の作成方法を復習するとともに、子どもへの理解を深めながら、保育士としての援助や関わりについて学ぶ	
第9回	実習記録の書き方、生かし方	0歳児クラス、1歳児クラス、5歳児クラスでそれぞれ実習を経験した学生の実習記録のサンプルをもとに、子どもの発達過程の理解を深めながら、実習記録の書き方、生かし方について学ぶ	
第10回	職員間の役割分担や連携・協働	視聴覚教材を通して0・1・2歳児クラスのオムツの交換や昼食の援助の実際について学び、職員間の役割分担や連携・協働の在り方を知る	
第11回	教材研究（おもちゃの製作）	身近な材料で作ることができる0・1・2歳児用おもちゃを製作し保育実践力を培うとともに、模擬保育室内を見学し、安全な保育環境と保育士の役割について理解を深める	
第12回	ゲストスピーカー（現場保育者）による講演会	現場保育者をゲストスピーカーとして迎え、子どもの生活や遊びと保育環境の実際及び保育士の役割と職業倫理、プライバシーの保護や守秘義務などの留意事項や実習生としての心構えについて学ぶ	
第13回	自主研究発表会	小グループ内で、乳幼児に関して調査学習を進めてきた内容の発表を行うとともに、多様な観点からの研究発表を聴くことで、視野を広げ、課題意識を高める	乳幼児に関する研究テーマを1つ定め、各自調査学習を進める
第14回	自己の課題の明確化	これまでの学びや自主研究発表会を踏まえ、保育実習I（保育所）に向けて自己の課題を明確にする	保育実習I（保育所）における行動目標を2つ設定する

第15回	実習の総括と自己評価	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする	
------	------------	--	--

授業時間外の学修

予習として、テキスト及び授業で事前配布する資料の該当箇所の事前読了、演習課題の準備、本学の子育て支援「わいわいひろば」に積極的に参加すること。各回の予習には、25分かかると予想される。

また、復習として、授業内容及び配布した資料・板書事項の見直しをすること。各回の復習には20分かかると想定される。

実務経験の有無

実務経験者が指導の一部に関わる 例：行政政策担当者・民間企業・医師等勤務経験者による講義など

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
保育実習の意義・目的の理解	授業内容を100%理解し、保育実習の意義・目的を理解し、具体的に説明できる。	授業内容を85%理解し、保育実習の意義・目的を理解し、説明できる。	授業内容を70%理解し、保育実習の意義・目的について説明できるが、やや不明瞭な点がある。	授業内容の理解が60%以下であり、保育実習の意義・目的について説明できず、助言や新たな資料提供等を行っている。
実習内容の理解及び自己の課題の明確化	授業内容を100%理解し、実習の内容や自己の課題について具体的に述べることができる。	授業内容を85%理解し、実習の内容や自己の課題について述べることができる。	授業内容を70%理解し、実習の内容や自己の課題について述べることができるが、やや不明瞭な点がある。	授業内容の理解が60%以下であり、実習の内容や自己の課題について述べられず、助言や新たな資料提供等を行っている。
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解	授業内容を100%理解し、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、具体的に説明できる。	授業内容を85%理解し、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、説明できる。	授業内容を70%理解し、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明できるが、やや不明瞭な点がある。	授業内容の理解が60%以下であり、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明できず、助言や新たな資料提供等を行っている。
実習の計画・実	授業内容を100%理	授業内容を85%理	授業内容を70%理解	授業内容の理解が60%以

実践・観察・記録・評価の方法への理解	解し、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、具体的に説明できる。	解し、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、説明できる。	し、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に説明できるが、やや不明瞭な点がある。	下であり、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に説明できず、助言や新たな資料提供等を行っている。
実習の総括と自己評価	実習内容を100%理解し、実習の総括と自己評価を具体的にを行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にできる。	実習内容を85%理解し、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にできる。	実習内容を70%理解し、実習の総括と自己評価を行っているが、今後の学習に向けた課題や目標がやや不明瞭である。	実習内容の理解が60%以下であり、実習の総括や自己評価が不十分で今後の学習に向けた課題や目標を明確にできないため、指導・助言を行っている。

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等		
成果発表	60%	
授業への貢献度		課題・発表について評価する
レポート	20%	授業内容全般の理解度を評価する
その他	20%	準備学習（予習・復習）の実施状況の評価する

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

<p>クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム 掲示板の活用 メール等の活用</p>

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
----------------------	--------------------	-------------

発問の吟味・精選 グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション コメントシートの活用 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用	PBL(課題解決型授業)	授業前レポート (予習) 授業後レポート
---	--------------	----------------------------

教科書

『子どもの育ちを捉えるラーニング・ストーリー：いつでも、どこでも、だれでもできる観察・記録・評価』 穴戸良子・三好伸子（北大路書房 2018）

参考書

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美（萌文書林 2016）
『保育所保育指針〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

SDGsとの関連

3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 209研究室
水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

029-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp